

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室 1・2」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
そだちの丘 育ちサポート係 TEL 30-4410 FAX 30-4433 E-mail: sodachi.sec@matsusaka.ed.jp

Familyとは・・・



身を切るような朝夕の寒さも緩み、センター周辺の桜も春の到来を告げるかのように、小さく硬い蕾が芽吹き始めております。今年の冬は、インフルエンザが猛威をふるいました。健康管理をしっかりとしましよと言いたいところですが、私自身1月早々にインフルエンザに罹ってしまい、説得力が全くなくなってしまいました。

この時期、寒暖差による風邪や花粉症等の体調不良で病院を訪れる人も多くなっていますね。病院の待合室では、幼子が泣くのを抱いてあやしている親の姿や自分の膝に子どもを座らせて本を読んであげている親の姿は少なくなり、親はスマホ、子どもは親の横に座ってタブレットやゲーム機に黙々と向かっている姿が目につくようになりました。子どもが退屈せずに済むという点では楽なのでしょうが、泣く子どもをあやす親にそこで出会った人が話しかけるなど、見知らぬ人との会話も成立したものです。

最近親子関係の中で、スキンシップが失われつつあると聞きます。離乳時期が早まっていること、おんぶや抱っこをしなくなってきたこと、そんなところからも、幼少期に「孤独」を感じる子どもたちが増えてきているのではないかと危惧しています。

夕食が済んだら、それぞれの部屋で各々が好きなテレビを見たり、自分一人で時間を過ごしたりすることが多くなっているように思います。冬には、こたつを囲んで家族みんなでチャンネルを奪い合いながらテレビを見るといった姿も少なくなってきたのではないのでしょうか。いろんなところで、家族のふれあいやスキンシップが失われつつあるように感じます。

家族における「孤独」が、人が生きていく上で一番辛いことであるようにも思います。核家族化がすすみ、少人数家庭の増加や家庭内でも個別で過ごす時間の増加等により、Family（家族）のあり方が急速に変わってきているように思います。これは、日本が経済的発展を遂げてきた中で生まれてきた家族の有り様の変化であるのかもしれませんが。

私は仕事上、外国の方と接する機会が多々ありますが、私が接してきたフィリピン人の家庭では、自分の家族をととても大事にしますし、相互扶助の精神も強く、家族、兄弟姉妹、親せきが助け合って生活を送っている姿が多く見られます。「自分の親族、ましてや自分の子どもや親を殺すなど考えられない。」と日本でのニュースを見聞きし悲しんでいる声を聞きます。フィリピンの方々と接していると、日本人が失いつつある大切なものを感じさせられます。

家族から見放され「孤独」から殺人行為や自殺行為を起こしてしまった事件も多いように思います。まずは、身近な者が「孤独」を感じさせない人となつなかりをもつことが大切のように感じています。

(小筆 邦昭)

Break Time ☺

Family は、Father and Mother, I love you! という俗説があります。

言葉遊びの感がありますが、素敵だとは思いませんか。

このように思える子どもたちが増えれば「孤独」はなくなり、痛ましい事件も起こらないように思います。

不登校の子どもたちの『安心して生活できる居場所』であり、
『学校復帰への一歩』を目標に活動するところ

～子どもたちの活動～

1日の過ごし方

教室での活動は、読書、個人・集団活動、学習タイム、スポーツタイムがあります。個人・集団活動の時間やスポーツタイムでの、通室生同士や指導員との交流により、人とのかかわり方を経験することで、気持ちの伝え方を学んでいます。学習タイムではそれぞれ目標を持ち、自分のペースで、テキストなどを利用して学習に取り組んでいます。少しずつですが、心にエネルギーを充電し、学校復帰を目指して活動しています。

体験活動

今年度は屋内活動として、軽スポーツ教室や陶芸教室、屋外活動として白米城跡登山や社会見学など、年9回の体験活動を行いました。

子どもたちは制作活動や山登りをする中で、グループで協力することの大切さを知ったり、達成感を感じたりしていました。公共の場でのマナーやモラルを知り、自分たちで考え、行動する姿が増えました。

また、地域の方と交流することで、自分の成長には多くの人のかかわりがあることを実感し、感謝の気持ちをもつ機会にもなりました。

～不登校児童生徒相談～

学校の先生や保護者の

不登校児童生徒にかかわる相談も行っています。「どのように相談すればよいのかわからないなあ」と思っている方、まずは**お電話**ください。

また、保護者の相談も行っています。お子様のことでどうしたらよいのかと悩んでいた、不安を感じていたりする保護者に、当センターのことをご紹介ください。

～担任会・研修会～

子どもたちの思いや心のサインにいち早く気づくことや、不登校児童生徒の思いに寄り添うことで個々のニーズに応じた支援が考えられます。その支援に関する担任会・研修会を年3回（6月・9月・1月）行っています。本年度も講師を招いて、子どもたちのニーズに合った支援方法や、行動から考えられるその子の思いをどうとらえるかについて学びました。来年度も本年度と同様（年3回）担任会・研修会を予定していますので、ご参加ください。